

無償資金協力に係る事後評価票

(注)本案件は外務省評価案件であり、外務省による一次評価を踏まえ外部有識者による二次評価を実施していますので、評価項目ごとの二次評価結果を追記しています。  
二次評価の概要については、外務省ホームページに掲載されている無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価報告書(平成20年度)をご参照下さい。

担当公館名：在セネガル日本国大使館	
国名：セネガル	案件名：第4次小学校教室建設計画（3/3期）
E/N署名日：2003年5月14日	供与限度額：11.08億円
先方実施機関：教育省（現就学前・初等教育担当省）	完工日：2004年12月17日
他の関連協力：なし	
1. 案件の目的 （B/D時の目標・想定効果を記載）	セネガル政府は「教育職訓10ヶ年計画（2000～2010年）（PDEF）」を策定し、①2010年までの初等教育就学率100%の達成、②教育の質の向上、③マネジメント能力の向上による初等教育の充実等を目標としており、特に、毎年2,000教室の新設と300教室の改修が必要とされている（注：現在は、MDGs達成には毎年2,500教室の建設が不可欠）。我が国は、①の目標達成努力を支援すべく、2005年に計画対象校で約15,000名の児童の新規就学と就学率85%達成を目標に、第4次小学校教室建設計画の実施を決定した。
2. 案件の内容	本件（3/3期）では、ファティック州及びカオラック州の41校に119教室の新設・増設・建替え、便所48棟等を建設する。また、便所を含む施設の使用・維持管理に関するソフト・コンポーネントを実施する。
3. 案件の妥当性	全般的評価：A（外部有識者による二次評価A-） (1) 我が国は基礎社会サービスの向上を社会開発の柱の一つとしており、中でも教育セクターは重点分野に位置づけられる。 (2) 本件の実施はセネガル政府のPDEFの目標に合致している。 (3) 本件の対象地域は、都市部では人口増加による教室の過密化や2部授業クラスの増加、農村部では学校及び教室の不足から、都市部、農村部いずれでも教室建設のニーズが高かった。 したがって、本案件は、我が国の援助方針、セネガル国の政策及び現地ニーズのいずれにも合致しており、妥当性があるものと評価できる。
4. 施設／機材の適切性・効率性	全般的評価：A-（外部有識者による二次評価A-） (1) 施設の評価 本件は完工から約4年が経過したにすぎず、黒板や床のコンクリートに小さなヒビが見られる教室が何件かあった以外、目立った破損は見あたらなかった。視察した同時期に建設された他ドナーの教室では、床のコンクリート剥げ等すでに劣化が進んでいた。そのため、本件施設は、耐久性に優れ、長期的にみた観点からは、将来の維持管理費・修理費の低減につながると評価できる。 また、彩光用にガラスブロックを窓の上部に設置しているのは我が国の協力で建設した教室のみで、セネガル政府や他ドナーが建設した教

	<p>室と比較して室内が明るく、教育環境として優れている。</p> <p>(2) 機材の評価 生徒用テーブルベンチ、教員用机・椅子、校長用キャビネット等の供与機材は全て使用されており、視察した限りでは破損もほとんどなく、校長及び教員からは堅牢で質が高いとの評価を得た。</p> <p>(3) 問題点 カオラック市内の小学校を視察した際、1教室が図書室兼パソコン室に転用されていたのを確認したところ、抗議の上、教室として然るべく使用するように申し入れた（図書及びパソコンは仏系団体から供与された由）。</p> <p>(4) 総評 本件の施設、機材は概ね適切に使用されており、セネガル側関係者の質に対する評価が高く、適切かつ効果的な投入であったと言える。</p>
<p>5. 効果の発現状況（有効性）</p>	<p>全般的評価：A（外部有識者による二次評価：A-）</p> <p>(1) 本件では、ファティック州及びカオラック州の41校に119教室の新設・増設・建替え、便所48棟の建設が行われた。新設・増設教室だけでも66教室あり、1教室平均50～60名とすると、新たに約3,300～4,000の児童が就学できたことになる。カオラック州では、基本設計時（1999/2000）44.3%であった就学率が、2007年には67.5%と20%以上上昇したことに貢献した。</p> <p>(2) 新設・増設のみならず、老朽化した教室を建替えたことにより、教育環境が改善された。本件対象校の校長及び教員によれば、我が国の協力により建設された教室は、明るく、机などの備品もきれいで頑丈であることから、学校を休む生徒が少なくなり、通学率の向上、留年する生徒の減少等の効果があった。</p> <p>(3) 本件対象校41校（3/3期）のうち、5校は新設校であり、近くに学校ができたことで就学機会の確保、通学距離の短縮が実現できた。</p> <p>(4) 便所の建設により、衛生的な環境が整備され、女子就学率の向上に繋がった。女子児童数が男子数を上回る学校もあった（カオラック市内）。</p> <p>(5) 学校施設の維持管理に係るソフト・コンポーネントを実施したこともあり、視察した10校全てで児童が教室及び便所の掃き掃除を毎日、拭き掃除を月に数度実施しており、施設の適切な維持管理が行われていた。</p>
<p>6. インパクト（上位目標への影響等）</p>	<p>全般的評価：A-（外部有識者による二次評価：B+）</p> <p>(1) P D E Fが掲げる年間2,000教室の建設と老朽化した300教室の改修に貢献した。</p> <p>(2) 農村部の本件対象校では、父兄会が本件実施後の児童数の増加に対応するために自発的に仮教室を増設していた。</p>

	(3)従来より父兄会は存在したが、ソフト・コンポーネントの実施を契機として学校運営委員会が新設された学校があった。
7. 自立発展性・さらなる改善の余地 (改善の余地がある点については以下に記入)	<p>全般的評価：B+ (外部有識者による二次評価:B+)</p> <p>施設の維持管理は、学校運営委員会が責任を負っており、新学期に父兄が支払う登録料から維持管理費を捻出している。</p> <p>&lt;改善の余地のある点&gt;</p> <p>複数の小学校から門・囲い塀の設置が必要と指摘されたが、当方からセネガル側負担事項であり、県視学官事務所に相談するよう伝えた。囲い塀の未設置により、閉学時に近隣住民が敷地内に入り込んで用を足す、家畜が入り込む等の問題に加えて、校長室と倉庫への泥棒被害もあった。</p>
(1)対応方針	基本設計調査の際、門塀の建設はセネガル側負担事項と合意しているので、引き続き囲い塀の建設をセネガル側に求めていく(現地 ODA タクスフォースで協議の上、2008年11月27日付 JICA セネガル事務所発初等教育大臣宛書簡で同建設を督促した)。
(2)対応方針理由	カオラック州視学官によると、小学校施設建設の優先度は、①教室、②便所、③囲い塀、④校長室、⑤倉庫、⑥教員室・図書室の順あり、先方にとっても囲い塀は優先度が高い。しかし、小学校や父兄会の自助努力では同設置まで手が回らないのが実情(余力資金は教室の新設・修理に当てている)であり、セネガル政府、視学官事務所が同設置に責任を持つべきである。
8. 広報効果(ビジビリティー)	<p>全般的評価：B+ (外部有識者による二次評価:B)</p> <p>(1)本件で建設された教室、便所には我が国国旗入り銘板が置かれ、今回視察した小学校の教員、生徒には我が国の協力により教室、便所等が建設されたことが周知されていた。都市部に比べて、農村部の新設校では、日本の作った学校として住民にも広く知られていた。</p> <p>(2)他方、都市部では学校関係者以外我が国の協力について十分に認識されていないように思われた。</p>
9. 被援助国による評価 (外交的効果についても、本欄に記述する)	<p>(1)我が国は、1991年以降、本件まで4次に亘って、426校1,511教室を建設し、セネガル政府の就学率向上政策を支援してきた。セネガル政府は、国家予算の約4割を教育セクターに割り当てるほど重視していることもあり、長年の我が国の協力に対するセネガル側関係者の評価は高い。</p> <p>(2)カオラック州視学官及び本件対象サイトの学校関係者にヒアリングした結果、本件で建設された施設に対して極めて高い評価を得た。他ドナー及びセネガル政府が建設した教室と比較して、質、耐久性などの面で日本が建てた教室が最も優れているとの評価であった。</p> <p>(3)視察先の小学校では、依然教室が不足しており、我が国の更なる協力を要望する声が多く聞かれた。</p>

	(4) 小学校教室建設支援を行っているドナーの中で、維持管理のソフト・コンポーネントを実施しているのは我が国だけであり、視学官及び現場の教師から高く評価されている。
10. 提言・教訓	<p>(1) 今回の視察において、セネガル側関係者から我が国が建設した教室の質への高い評価、信頼を得ていることが確認できた。他方、就学率の向上、教室不足の解消のため、セネガル側の要請を受けて、より低コストでより多くの教室を建設できるよう、現在コミュニティ開発支援無償の枠組みで小学校建設が実施されている。現地業者を使わずを得ないコミュニティ開発支援無償で一般プロジェクト無償の教室と同等の質を求めることは極めて困難であるが、今までに得たセネガル側からの高い評価及び信頼を損なわないよう質の維持に対して最大限の注意を払うことが必要である。</p> <p>(2) ソフト・コンポーネントの実施により、教員及び生徒に公共財である学校施設の維持管理の重要性が十分に認識され、今回視察した10校全てで毎日掃除が実施されていた。今後は、ソフト・コンポーネントの指導対象を教員のみならず、県視学官事務所職員にも広め、教員に人事異動が生じても、県視学官事務所職員がファシリテーターとして学校を巡回するなど、施設の維持管理体制が継続する仕組みを作ることが必要である。</p> <p>(3) 父兄、地域住民をさらに積極的に学校運営に関与させるために、ソフト・コンポーネントで父兄会、地域住民代表を対象としたセミナー、研修などを実施することも検討できると考える。</p> <p>(4) 都市部のビジビリティを確保するため、学校入口に我が国の協力を示す看板の設置をコンポーネントとすることも一案である。</p>
11. その他	なし

<写真>



教室の前に集まった児童(ゴサス郡)



授業風景(カオラック市)